

## 大草谷津田いきものの里

### 春の草花と小川

田井中 信子（千葉市）

日 時：2009年4月5日（日）10：30～12：00

参加者：大人10名 子ども2名

担当指導員：松本美千代、田井中信子

入口から杉林を抜け〈めじろんば〉を右に曲がると、視界がぱッと開け明るい谷津田に出ます。足元や斜面林の裾には白、黄、紫、藍、桃色等の花が咲き乱れています。今日の観察ポイントは、花を中心として、人間も含めた生き物同志の関わりを観る事にしました。

カタバミ、タンポポ、タネツケバナ、スミレの仲間、ホトケノザ、セリ、ウグイスカグラ等と送粉者としての蝶、蜂、虻との関係（それぞれの昆虫については図鑑を用意しました。）アオキ、マンリョウ等種子、果実の散布者としての鳥との関係、カラスノエンドウは1つの花で花外蜜腺に集まる蟻、茎の汁を吸う油虫、その捕食者である天道虫と複雑な関わりを観察しました。虫の訪れが少ない寒い時季でも見られる花は自家受粉によって子孫をつなぎます。オオイヌノフグリは参加者の手で花をつぼめてもらい自家受粉の体験をしてもらいました。ウスバカゲロウの幼虫とたまたま通りかかって食べられてしまう小昆虫との関係…。

下畠でカブトムシの幼虫を小さな堆肥の山の中から担当者が探し観てもらいました。まるまると太った大きな幼虫に全員から感嘆の声が上がりました。幼虫を掘り出す時は優しく土をかき分けること、幼虫は素手で持たず手袋等を使う事等の注意を伝えました。小川では、アカガエル、ヒキガエルのオタマジャクシをケースに入れ観察。その他、ドジョウ、アメンボ、ヒメゲンゴロウ等を確認しました。